

立命館經濟學

第十四卷 第一号

昭和四十年四月

内 容

論 說

- 民権運動研究の課題と方法……………後 藤 靖 1
- A. スミス, J. S. ミルにおける
国家経費に関する理論の展開 III ……………箕 浦 格 良 36
——古典学派における財政思想 (b)——
- 社会主義経済学の生成と発展 (承前) ……………木 原 正 雄 70
——「労働支出の法則」について——

資 料

- イタリア経済の動向……………足 立 政 男 105

書 評

- 関 弥三郎著『社会統計学』……………有 田 正 三 131
- 学界動向 共同研究室 141

立 命 館 大 学 經 済 学 会

立命館経済学 第十三巻・第五号

論説

池田経済成長政策の矛盾……………武藤守一

A・スミス、J・S・ミルにおける

国家経費に関する理論の展開Ⅰ……………箕浦格良

——古典学派における財政思想(Ⅱ)——

金融資本の検討(下)……………小牧聖徳

韓国の工業化過程……………朴守鉉

——解放後の問題を中心にして——

資料

マックス・ウェーバー『東エルベ

農業労働者の状態における発展諸

傾向』(二)……………大友彦雄
吉矢輝彦

発行所 立命館大学人文科学研究所

立命館経済学 第十三巻・第六号

論説

不安定性原理について……………建林正喜

「地域開発」論序説……………浜崎正規

——いわゆる「社会開発」問題との関連で——

A・スミス、J・S・ミルにおける

国家経費に関する理論の展開Ⅱ……………箕浦格良

——古典学派における財政思想(Ⅲ)——

資料

管大同『中国における資本主義商

工業の社会主義改造』……………武藤守一

——第八章「マルクス・レーニン主義の普遍的真理

と中国革命の具体的実践との結合の勝利」——

書評

梯明秀著『経済哲学原理』……………山中隆次

発行所 立命館大学人文科学研究所